



季節を問わず発生する水害の発生要因を知っておこう

水害への備え

近年の主な被害

2020年9月4日

1時間90mm(気象庁レーダー解析)の猛烈な雨

要因 台風10号

統計開始以来1位となる猛烈な雨となり、記録的短時間大雨情報が発表された

大雨の影響で弘前公園本丸西側の法面の一部が桜の木を巻き込み崩れる(2020年9月)



2022年8月9日～8月13日

青森県初の線状降水帯

要因 前線

8月としての観測史上1位を更新する記録的大雨

岩木川沿いの圃場ではビニールハウスが水に浸かった(2022年8月)



発生前の備え

防災気象情報の入手

ラジオ、テレビのほか、インターネット等を通じて、一人ひとりが必要な防災気象情報を手軽に入手することができます。



早期注意情報 天気予報でも聞く「警報級の可能性」

大雨、大雪、暴風雪など警報級の現象が5日先までに予想されているとき、その可能性を「早期注意情報(警報級の可能性)」として、[高][中]の2段階で発表。翌日までは時間帯を区切って表示され、2日先から5日先までは日単位で表示される。

中

警報発表の可能性は高くはないが、命に危険が及ぶような警報級の現象となり得る。深夜に天気が急変して突然警報が発表されても、あわてずに対応できるよう心構えを高めておこう!

高

危険度が高まりつつあり、「警報に切り替える可能性が高い注意報」がすでに発表されているか、まもなく発表される。

POINT [高]が発表されたら?

翌日までの期間で[高]が発表された場合は、警報級の現象が予想される詳しい時間帯を確認します。いつ警報が発表されてもスムーズに行動できるよう、避難行動の想定などをしておこう。

Check 現在発表中の「早期注意情報(警報級の可能性)」はここでチェック! 青森地方気象台ホームページ「防災気象情報」

青森地方気象台HPトップ <https://www.jma-net.go.jp/aomori/>



市町村別の発表状況はこちらから https://www.jma.go.jp/bosai/warning/#lang=ja&area_type=offices&area_code=020000



指定河川洪水予報(岩木川・旧大蜂川・平川・土淵川)

氾濫の恐れがあるとき「〇〇川氾濫注意情報」のように発表されます。発表されたら、河川の近くにお住まいの方は避難の準備をしましょう。



Check 河川情報はこれでチェック! <http://www.kasensabo.bousai.pref.aomori.jp/>

青森県河川砂防情報提供システム 県内の雨量、河川の水位、洪水予報などが地図や一覧で確認できます。



注意報、警報レベルで降る雨の強さを知ろう

大雨・洪水注意報 1時間25mm以上の雨

どしゃ降り。ワイパーを速くしても見づらい。側溝の水があふれる。

融雪注意報

冬から春にかけて、雪どけによる被害が予想される場合。

大雨・洪水警報 1時間40mm(山沿い45mm)以上の雨

バケツをひっくり返したように降る。道路が川のようになる。

記録的短時間大雨情報

数年に一度しか発生しないような短時間の大雨を観測した際に発表される。

線状降水帯

激しい雨を降らせる積乱雲が連続して発生し、線状に並んだもの。同じ場所で数時間にわたり降り続けるため、経験したことのない大雨となる。

家の外と中の備えを確認

側溝はきれいに

排水をスムーズにするため、自宅近くの側溝は定期的な清掃しましょう。

土のうの準備

低い土地にお住まいの方は、雨が強まる前に土のうを準備しましょう。

雨戸や網戸を固定する

窓や雨戸はしっかりと閉め、必要があれば補強しましょう。

土のうの無料提供

問 弘前市役所 道路維持課 0172-32-8555

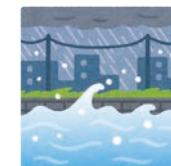
避難は早めに

避難は、雨が激しくなる前に完了しましょう。避難所までのルートに道路冠水の恐れがないか、事前にチェック!

弘前市では水害等に備えて、希望する人に土のうを無料提供しています。事前に天気予報を確認し、大雨による浸水の恐れがある場合は早めに準備しましょう。
※数に限りがあります。すぐに提供できない場合があるので、事前にお問い合わせください。

水害発生時の行動

- 増水した河川には近づかない
- ガード下、地下道など、冠水しやすい道路の利用は避ける
- 夜間は周囲の状況がわかりにくいので、不要な外出は控える
- 雨が激しい時は外への避難は避け、建物の2階など高い場所に待機



POINT 車の運転にも注意が必要です!

雨が降って路面が濡れていると、ブレーキを踏んでから車が停止するまでの距離(制動距離)が長くなります。また水がたまっている路面を高速走行すると、ハンドルがきかなくなる「ハイドロプレーニング現象」が起こりやすくなります。雨の中で運転するときは、速度を落として車間距離をとり、水たまりやわだちは極力避けて走行しましょう。特に水深が深いと思われる所に進入するのは危険です。ライトを点灯して、後続車に存在を知らせることも必要です。



警戒レベル 特集 水害 土砂 暴風 台風 火災 雷 地震 雪害 停電 火山 持出品 避難所 緊急連絡先